

事業所における児童発達支援自己評価（公表）

公表：平成31年3月20日

事業所名 すぎのこ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		各クラス、個別室、感覚統合の部屋等、人数や療育に応じた部屋を使っている。	
	②	職員配置数は適切である	○			
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特定に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		・必要なお子様には、視覚的に個別スケジュールを提示している。	
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○			
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○		・常に意識を持って取り組んでいる。	
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善に繋げている	○		・保護者と個別に話し合う機会を設け、意向等を把握できるようにしている。	
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を事業所の会報やホームページ等で公開している	○		・アンケートの実施と集計を行ない各家庭に配布し、ホームページにて公開した。自己評価も行ないホームページにて公開した。	
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善に繋げている	○		・平成26年外部審査を受審した。評価を元に業務に活用している	・法人独自の内部審査を今後も受審する予定。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		・研修は、計画にのっとり専門的な研修を受ける体制を整えている。また、自己研鑽を高めるため各自が専門研修に参加するようにしている。	
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		・定期的にニーズを聞き、計画を作成している。	
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		・発達検査を実施。	
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		・保護者からの要望やこども発達状況に応じて関係機関との共有を図りながら支援内容を設定している。	
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		・毎月クラス、調整会議、職員会議等で内容の検討や支援について話し合いを行っている。	
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		・各、クラスごとに話し合う機会を設けている。	
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		・曜日別の利用の方もいるので固定化しないようにしている。	

⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ合わせて児童発達支援計画を作成している	○		・個々の状況に合わせて作成を行っている。	
⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日に行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		・朝礼で確認をしている。	
⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		・終礼時やクラス会議等、上司への相談を含め職員間で共有を図っている。	
⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		・記録記載の徹底を行っている。	
⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		・定期的に保護者と面談を行っている。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携、関係機関や保護者との連携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		・担任や児童発達支援管理責任者等の参画の下で行われている。	
	㉑	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		・関係機関研修を実施。常に何かあれば連絡ができる体制を整えており、連携を密に出来るようにしている。	
	㉒	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		○	・現在対象児がいないため	
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		○	・現在対象児がいないため	
	㉔	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		・相互に見学を行い情報共有と相互理解を図っている。	
	㉕	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		○	・情報共有と相互理解を図っている。	
	㉖	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○		今後取り組みについて考慮し実施に向けていく
	㉗	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○		・地域の幼稚園との交流を年3回行っている	
	㉘	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		地域の定例会に参加、又、出席を依頼されケース会議に参加している。	
	㉙	日頃から子どもの状況を保護者に伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		・活動内容・子どもの様子、課題の共通理解を図れるよう連絡ノートや電話連絡が密に行われている。	
保護者への説明責任等	㉚	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		・母子の不安が共に大きい時には思いに寄り添い対応策と一緒に考えている。	
	㉛	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		・年度当初、契約時に説明。	
	㉜	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から	○		・年3回実施。	

		児童発達支援計画の同意を得ている				
	③4	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		・面談等で相談にのる機会を設けている。また、連絡ノートを活用し対応を行っている。	
	③5	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		年間4回、保護者役員会を開催し、会議場所の提供、記録等の協力を行っている	
	③6	子どもや保護者からの相談や受入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		・年3回の面談と、随時相談を受け速やかな対応を行っている ・苦情受付ボックスを設置している。	
	③7	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		・月1回、活動内容や行事予定をおたよりやホームページを通して保護者、子どもにお知らせしている。	
	③8	個人情報の取扱いに十分注意している	○		・個人情報の守秘義務の誓約書を契約時に取り、日々取扱いの注意喚起を行っている。	
	③9	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		面談や個々の相談、関係機関との連絡を行い、情報交換を行っている	
	④0	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		博愛祭りや、お餅つき、施設訪問を行い交流している	
	④1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施	○		・避難訓練、通園バスの訓練を毎月行っている。	保護者向けにもマニュアルを玄関に提示し観覧できるように設置する。
	④2	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		・様々な事を想定して訓練を実施している。	計画を立て、今後も定期的に行う

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	④3	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	○		・保護者面談時、フェイスシートで確認を行い、日々、服薬についても細かくお聞きしている。	
	④4	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		・保護者と栄養士も交え話し合いを設けて対応を行っている。	
	④5	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		・作成を行い、事例から予防が出来るようにしている。	
	④6	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		・研修会があれば参加。職員同士でも確認し合っている。	
	④7	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		・バス利用の際のシートベルト着用の了解を得られるよう個別支援計画書に記載し、面談時に了解を得ている。	